



とうきょう すくわくプログラム

2025年度活動報告書

杉並井萩雲母保育園



テーマ【自然との関わり(生き物...植物)】

設定した理由・背景

園庭があり、自然に触れる機会が多いという特徴がある。また、日頃から虫や花に興味をもち、分からないことがあると図鑑で調べたり、戸外にでて自然で遊んだりすることが好きな事から、自然との関りをより深めるためこのテーマを設定した。

用意した環境設定

- ・自然物を使って遊べる環境を作った。
 - ・購入物品
- クレヨン、虫眼鏡、虫かご、花の土など

活動のあゆみ

- 4月
- ・散歩や公園で春の自然に触れ、花を探したり集めたりする。
 - ・集めた花を見せ合ったり、同じ花を探したりしながら興味を深める。
 - ・散歩で収集した自然物を使い、押し花作りを行い、押し花にする前後の違いを観察し、気づきや発見を共有する。
 - ・自然物(押し花・木の枝)を使って、こいのぼり制作を行う。
- 5月
- ・スイートコーンやオクラの苗植えを行い、種や苗を観察しながら、栽培活動に関心を持つ。
 - ・植え方の違いによる生長の変化に興味を持つ。
- 8月
- ・夏野菜の観察を行い、葉や実の様子など生長の変化に気づく。
 - ・アメリカキャンプ村で奥多摩の山の植物に触れる。
- 12月
- ・落ち葉や木の実など冬の自然物を収集する。
 - ・収集した自然物を使って制作活動を行い、季節を感じる。
 - ・冬野菜の栽培
- 2月
- ・ヒヤシンスの栽培
- 3月
- ・冬野菜の収穫、観察、食べ比べ。ラディッシュは、調理で色が変化することに気づく。

✿探究活動の実績✿

- ①進級後、初めての公園遊びの中で、春の自然に触れながら花を探姿が見られた。見つけた花を友だちと見せ合ったり、同じ花を探したりし、自然物への興味関心が高まっていることから、保育者の「どんな自然物があるだろう」という問いから探究活動を始めた。また、拾った花びらを「何かに使えないか」という問いに「制作に使えそう」、「やってみよう」と期待を膨らませる姿が見られた。
- ②散歩先で収集した自然物を図鑑で調べたり、分類分けをしたりした。「花びらの形が似ているね」「色がちょっと違う」など様々な気づきがあった。「花を長持ちさせるにはどうしたらいいか」の問いに押し花が上がり押し花にする前後の違いについて観察した。「色が変わった」「小さくなった」「べらべらになった」などの気づきが多く見られた。保育者の「なぜそのように変化したのか」という問いかけに対して、4歳児は見た目の変化を中心に捉えていた一方で、5歳児からは「水分がなくなったから」など理由を考える姿が見られ、発達による視点の違いが見られた。
- ③押し花を用いたこいのぼり制作では、「色が変わる花と、変わっていない花もある」「触るとパリパリしている」など、時間の経過による自然物の変化に気づく姿が見られた。また、こいのぼりに使用する木の枝を探す活動では、「長い方がいい」「この枝がいい」など、どんな物を作りたいのかイメージを膨らませ、自分たちで考えながら素材を選び、これまでの経験を生かして表現しようとする姿が見られた。
- ④夏になると「どんな夏野菜があるのか」といった問いから始まり、スイートコーンとオクラの栽培をすることになった。種や苗を観察する中で「ピンク色」「大きい」「ゴツゴツしている」などの発見が見られた。また、「土のお布団をかけてあげる」など、生長を意識した関わりや、植え方の違いによる生長の変化に興味を持つ姿も見られた。観察の際、葉の様子や実の成長に目を向け、「大きくなっている」「葉っぱが増えている」「虫に食べられているところがある」など、継続的な変化に気づく姿が見られた。日々の観察を通して、自然物の成長過程で変化への関心が高まっていった。
- また、アメリカキャンプ村では奥多摩の豊かな自然に触れ、沢山の植物の中からこれが一番と言う物を見つけ、家族や自分のお土産に厳選した植物を持ち帰り、動物や空想の生き物などに見立てて自由に表現し作品を作った。
- ⑤冬には、落ち葉や木の実を集める活動を行い、「色がきれい」「この形おもしろい」など、季節による自然の違いに気づく姿が見られた。収集した自然物は制作活動に取り入れ、自然と表現活動が結びついた活動へと発展していった。保育士の「なぜ冬は夏と葉っぱが違うんだろうね」という問いに「乾燥しているから」「寒いから」など様々な意見がでた。
- ⑥これらの活動を通して、子どもたちは自然物の違いや変化に気づくだけでなく、「なぜだろう」と考える姿や、自ら関わりを広げていこうとする姿が見られた。活動は一過性ではなく、制作や遊び、栽培活動へとつながりながら継続し、探究的な学びへと発展していった。



自然物を分類分けしている様子



収穫したスイートコーンを観察して絵に描く様子



自然物を使って制作に取り組む様子

まとめ

活動を通して、子どもたちは身近な自然に主体的に関わりながら、多くの気づきや発見を積み重ねていった。花や葉、種など様々な自然物に触れる中で、色や形、感触の違いに気づくだけでなく、「なぜ変化するのか」「どうして違うのか」といった疑問を持ち、自分なりに考えようとする姿が見られた。特に押し花や栽培活動においては、継続的に関わることで変化に気づき、探究的に考える姿へとつながっていった。また、自然物を制作活動に取り入れることで、気づきや発見が表現へとつながり、活動がより広がりを持つものとなった。季節ごとの自然に触れる中で、自然と生活とのつながりを感じながら興味関心を深めていく様子が見られた。今後は、子ども一人ひとりの気づきや考えをより引き出せるよう、環境構成や関わり方を工夫しながら、小集団での話し合いの場を設けるなど、より主体的に表現できる機会を大切にしていきたい。



とうきょう すくわくプログラム

2025年度活動報告書

杉並井萩雲母保育園



こどもの「すくすく×わくわく」をおうえん

テーマ【自然との関わり:水の中の生き物】

設定した理由・背景

園でメダカを飼っていることや、様々な生き物に興味をもつ姿が見られることから「自然(水と水の中の生き物)」をテーマとして設定する。自分たちで水の中の生き物の飼育をし、水の中の生き物について探究活動を行いながら子ども達の興味や関心をさらに深めるため。

用意した環境設定

- ・サワガニを観察できる環境を用意した
 - ・購入物品
- 水槽・ザリガニの砂・苔付き石・水質浄化底砂

活動のあゆみ

6月～3月

- ・サワガニの飼育を通して、生態について興味を持ち調べたり世話をしたりする。

8月

- ・アメリカキャンプ村の川で、サワガニや水の中の生き物を採集し、自然界の生き物に触れる実体験をする
- ・川で体験したことを、飼育に再現する。

2月～3月

- ・振り返り(カニの紹介ポスター作り)
- ・活動発表(ポスター掲示)

✧探究活動の実績✧

- ①どんな問いかけから始めたか?...園で飼育しているメダカに興味を持ったり、様々な生き物に興味をもったりする姿が見られることから、サワガニを飼ってみる事にした。保育者の「このカニはどこから来たんだろう?」の問いかけから探求活動を始めた。
 - ②子どもたちの反応とそれに対して保育者側から行った声かけ...「カニだから海から来たんじゃない?」と、カニは海に住んでいるというイメージを持っている子が多かった。そこで、保育者が「図鑑で調べたらわかるかな?」と声をかけた。
 - ③活動中の子どもたちの姿・声、子ども達同士の関わり・対話...図鑑と目の前にいるカニを見比べて、四苦八苦しながらも足の形や色、大きさなどから『サワガニ』ではないか?という所に行きついた。更に保育者の「このカニどうしたらいいかな?」の問いかけに、「お家があるんじゃない?」「何たべるんだろう?」という意見が出た。お家については園にあった水槽に決まり、そこにお水が必要となったが、水の量について意見が分かれた。対話の結果、『海のカニ』ではないため、「溺れちゃうからお水は少なくてもいいのではないか」と言う発想になり、少しお水を入れてみる事になった。何を食べるかについては、図鑑で調べて人参を食べる事がわかった。グループの話し合いでは、アイス、パスタ、ソーセージなど人間と同じ食べ物を食べるという意見が出たため、給食の残りをあげてみると、パスタやご飯を食べることが分かった。図鑑で調べた人参は食べなかった様子を見て、「カニさんも好き嫌いがあのかなあ」と自分たちと同じように感じる子もいた。死んでしまった際には、なぜ死んでしまったのか皆で考え「ご飯を沢山あげて食べ過ぎたから」「ご飯を沢山入れて水が汚れたから」「みんながうるさいから」「病気になったから」などの意見が出た。その後は他のカニも死んでしまわないよう餌をあげたい気持ちも抑え、気遣う姿が見られた。
- 8月にアメリカキャンプ村に行き、実際にサワガニを探して捕まえる体験をした。その体験から川には人間の食べ物は無い事や、カニは石の下にいる事などが分かり、帰ってから下のクラスの子達に教えたり、園庭で石や葉っぱを拾って水槽に入れ、川を再現したお家を作ろうとしたりしていた。
- ④終わりの時期の姿・まとめ...振り返り(カニの紹介ポスター作り)を予定。また、掲示し保護者に報告をする。



5歳児が図鑑で何かニが調べる様子



4.5歳が何を食べるか話し合う様子



5歳児が川でサワガニを探す様子

まとめ...この活動を振り返って、先生方の気づき来年度に向けて、次なる活動・環境設定にむけてなど

子どもたちの考えや意見に耳を傾け、実際に試してみる環境をつくる事を大切にしてきたことで、様々な気づきや、疑問が生まれたり、図鑑に書いてあったようにはいかなかったり、実際に体験してみる事の大切さや面白さを子ども達と一緒に感じる事が出来た。「なんでカニはいつも石の下に隠れているんだろう?」「お休みでご飯をあげていないのになぜウンチをしているんだろう?」と言う疑問も出ているが、まだ想像の途中なので、引き続き探究をしていくと共に、今後もすくわく活動の取り組みを日頃の保育に取り入れ、子ども達の好奇心や探求心を広げていきたい。



とうきょう すくわくプログラム

2025年度活動報告書

杉並井萩雲母保育園



テーマ【体の動き】

設定した理由・背景

戸外や室内などで沢山体を動かして遊ぶことが好きなことから、友達と一緒に全身を動かす楽しさをより感じ、味わうため。

用意した環境設定

・鉄棒・マット

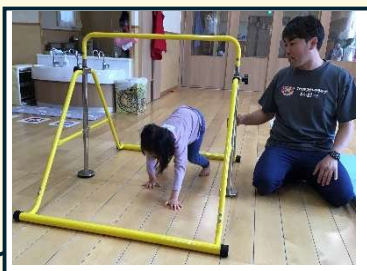
活動のあゆみ

4.6.8.1.12.3月 体操教室...保育の時間に体操を行なう。
6月～体操教室で教えてもらったことを継続して試す。
8月逆上がりに必要な力について教えてもらい、試す。ワニ歩き。
10月運動会・体操教室で鉄棒の成果を発表する。
12月逆上がりに必要な力について教えてもらい、試す。クマ歩き。
3月体操教室で、目標にして取り組んできたことを発表する。

体操教室 保育の時間に体操を行なう。
準備体操、ストレッチ、だるまさんが転んだ、立つ座る、鉄棒、マット運動、鬼ごっこ等々

＊探究活動の実績＊

- ①幼児クラスに進級し、年上の友達が行なう遊びに興味を示した。遊ぶ姿を見て「自分もやってみたい」「自分にもできる」と自信を持っていた。その中でも「逆上がりがやりたい」と声上がる。その姿を見て、「どうしたら出来るようになるかな?」と問いかけ、体の動きについて探究活動が始まった。
- ②日々の活動を通して身体を動かす難しさを感じ、「難しい、出来ない」と嘆く姿も見られた。体操教室を経験していく中で、講師から「逆上がりをするためには、まず、豚の丸焼きという技を出来るようにならないと出来ない」と教えてもらった。「どうしたら自分の力だけで豚の丸焼きが出来るようになるかな?」と問いかけた。
- ③実際に遊びの中で意欲的に挑戦する姿が見られるようになった。その中で、「低い鉄棒だと自分の力だけで出来るかもしれない」「腕の力がやっぱり必要だ」と自分たちなりに考えながら取り組む姿が見られた。実際にやってみるが出来ないことも多く、年上の友達や講師に技のコツを聞きに行き、「腕の力が必要なんだよ。」と教えてもらい、自分たちなりに意識しながら挑戦する姿が見られていた。教えてもらったことを実際にやってみるが、なかなかうまくいかず、「腕の力をつけるためにはどうすればいいか」新たな疑問が生まれる。「給食を残さずいっぱい食べたら腕の力がつかもかもしれない」や、「毎日やると出来るようになるかもしれないね」という意見などが出て、意欲的に取り組む姿が見られた。運動会の日が近づいていたこともあり、「保護者にも頑張っている姿を見てもらいたい」という気持ちも高まっていった。
- ④一人ひとりが「毎日続けて挑戦する」という目標を持ち、取り組む姿が見られた。鉄棒でただぶらさがるだけではなく、難しくても技に挑戦することでできた時の達成感や喜びを感じることができた。また、新たな問いが生まれるごとにそれについて子ども達が様々な意見を言い合う姿が見られ、一人ひとりが自分なりに考えることで、体を動かすことや探究することの楽しさを改めて感じる機会になった。



クマ歩きで腕の力をつけている様子



豚の丸焼きにはどんな力が必要か聞いている様子



運動会で鉄棒を披露する様子

まとめ

探究活動を通して、子ども達の「やってみたい」という気持ちに寄り添い、子ども達の意欲を引き出し、挑戦する難しさや楽しさを伝えていくことが出来た。子ども達の活動の様子は動画に撮っていったが、その動画を子ども達と見返す機会をなかなか作ることが出来なかったため、客観的に自分の姿や友達の姿を見ることで、どこの身体をもっとどうしたら良いかなど、さらに探究が深まっていけるようにしたい。また、雨の日も、室内で活動が出来る環境を作り、継続的に挑戦する機会も設け、今後も子ども達と話し合いながら環境を整え、探求心を育てていきたい。



とうきょう すくわくプログラム

2025年度活動報告書

杉並井萩雲母保育園



テーマ【体の動き】

設定した理由・背景

園周辺に体を動かせる遊具のある公園が沢山あるという特徴がある。また、子供たちは戸外や室内などで体を動かして遊ぶことが好きなことから、様々な体の動かし方を知り、楽しさをより知るためこのテーマを設定した。

用意した環境設定

- ・鉄棒、縄、マットパソコン、プロジェクター
 - ・購入物品
- くるりんベルト、縄跳び、バランスボード、バランスボール

活動のあゆみ

- 4.6.8.1.12.3.月 体操教室...保育の時間に体操を行なう。
 4月～リレー大会に向けて走り方・バトンの渡し方について教えてもらったことを実践。→考える→試す→教え合う。
 5月 姉妹園対抗リレー大会
 6月～体操教室で教えてもらったことを継続して試す。
 8月 逆上がりに必要な力について考える→オリンピックの動画から気づきを実践。
 9月 くるりんベルトで逆上りに挑戦。自信を付ける。
 10月 運動会・体操教室で鉄棒の成果を発表する。
 11月 姉妹園対抗リレー大会
 12月 取り組んできた縄跳び、新たに跳び箱の跳び方について教えてもらい試す。
 1月 跳び箱に必要な体の動きを活動に取り入れる。
 2月 跳び箱を跳ぶコツに気づく。
 3月 姉妹園対抗リレー大会/体操教室で、目標にして取り組んできたことを発表する。諦めず継続して挑戦することが自信となることに気づく。

✿探究活動の実績✿

- ① マットや縄、鉄棒、ボールなどを用いた活動を通して、子どもたちは様々な体の動きに親しむ姿が見られていたが、すぐに出来ない諦める姿があった為、「どうしたらうまくできるのかな?」といった問いから体の動きについての探究活動が始まった。マット運動では、「マットからはみ出さずに真っすぐ転がるにはどうやって転がればいいのか」と一人ひとりが考え、体や手の向き、勢い、真っすぐ立ってからゆっくりと回るなど工夫しながら試行錯誤する姿が見られた。
- ② 体操教室や日々の活動の中で体を動かす楽しさを感じながら、「できるようにになりたい」という思いが高まり、鉄棒ではひとり一人の目標を立て、体の動きについて考えた。「逆上がりが出来ようになりたい」と言った子ども達の声から、「どんな力が必要なのか」「どうしたらできるのか」といった問いをかけた。
- ③ 子ども達からオリンピックの話があり、「体操選手がすごかったよ」といった話題が上がった。そこから、オリンピック選手の鉄棒の動画を見て探究が始まった。動画を見て、子ども達からは「腕の力」「ジャンプする力」「蹴る力」など、様々な力が必要ではないのかと自分たちなりに考える姿が見られた。実際に取り組む中で思い通りにできない経験を通し、「なぜできないのか」と新たな問いが生まれ、どうしたらその力がつくのかさらに考えを深めようとする姿へとつながっていった。自分たちが考えた必要な力をつけるにはどうしたらいいのかを考え、「筋力が必要だ」と考えた。「ダンベル」「腹筋」「腕立て」「ご飯を沢山食べる」など自分たちで筋トレメニューを考え、手作りダンベルを作った。縄を使った活動では、「どうしたらタイミングよく跳べるのか」と考え「縄が下に来た時に飛ばせばいいのではないのか」「両足を揃えて飛んでみたら引っかからないのではないのか」など考えながら取り組む姿があった。個々の発達差が見られる中でも、それぞれが自分なりに体を動かすことを楽しんでいた。
- ④ 継続的な活動の中で一人ひとりが目標を持ち、取り組む姿が見られた。成果を発表する機会を通して達成感や自信につながり、体の使い方や必要な力について考えながら取り組む姿が育まれていった。これらの活動を通して、子どもたちは体を動かす楽しさを感じるだけでなく、「どうすればできるのか」「どんな力が必要なのか」といった問いを持ち、自ら考え試しながら理解を深めていく姿が見られ、探究的な学びへとつながっていった。また、



逆上りの基礎の練習をしている様子



逆上がりにはどんな力が必要か聞いている様子



体操教室でゲーム活動に取り組んでいる様子

まとめ

出来ないことがあるとすぐに諦めてしまう姿があったが、一人ひとりが自分なりの目標をもち、その目標を達成するためにはどのような事をしていいのか、どのような体の動きをしていいのかなどを考え、諦めずに挑戦する姿が育っていった。特に鉄棒や跳び箱の活動では、思い通りにいかない経験を通して新たな気づきが生まれ、探究的に考える姿へとつながっていった。

体操教室の中でゲームやリレーなどの活動を通して、体を動かす楽しさだけでなく、集団の中での動きやルールについても学ぶ姿が見られ、「どうしたらみんなのできるのか」といった視点も加わり、体を動かす楽しさを感じながら、ルールや集団での動きについても学んでいく姿が見られた。継続的に取り組む中で一人ひとりが目標を持ち、達成感や自信を感じる姿も見られていた。

今後は、子どもたちの気づきや疑問をより引き出せるよう、活動後の振り返りや共有の場を大切にしながら、一人ひとりが主体的に取り組める環境を整え、さらなる探究的な学びへとつなげていきたい。



とうきょう すくわくプログラム

2025年度活動報告書

杉並井萩雲母保育園



テーマ【 絵本と異文化 】

設定した理由・背景

自園では、ワールドライブラリーを利用しており、他国の絵本を読む習慣がある。また、子ども達は絵本が好きで、自分で読んだり読み聞かせを楽しんでいる。そこで、多文化に触れ、様々な言葉に興味をもてるようにするためにこのテーマを設定した。

用意した環境設定

- ・ 購入物品
- プロジェクター、パソコン、カメラ

活動のあゆみ

- ◎毎週火曜日に英語を行う。
- 英語の歌、単語、読み聞かせ、カード遊び、プリント
- ◎異文化プログラム
- 7月『世界ののりもの』『世界の服』
- 11月『世界の服』『世界のおもちゃ』
- 3月『世界のダンス』『世界のおまつり』
- ・4月～3月 子どもたちと絵本を読み合う時間を設け、異文化の違いや気づきを発見し、発表し合う。
- 12月 世界をテーマにした献立①から、各国の特産物や料理、国旗に触れ、普段食べているものが海外にもある事や、似ている国旗がある事に気づく。
- 1月 世界をテーマにした献立②から、各国のお祝い料理やいただきますの言葉に触れ、様々な言葉があることに気づく。

✽探究活動の実績✽

- ①保育者が「みんなはフィリピンって国を知ってる？」と問いかけを行う。
- ②「知ってる」「知らない」「外国の国でしょ」「〇〇君が引っ越した国でしょ」など様々な反応があった。それに対して、「カメラを通してフィリピンの先生とお話をしてみようと思うんだけどどうかな」と声掛けをした。
- ③Zoomを通してフィリピンの講師と英語活動を行う中で、初めは恥ずかしさや戸惑いが見られたが、ダンスや絵本、カード遊びなどを通して徐々に活動に慣れ、「英語でどう伝えるのか」「何と言っているのか」といった問いを持ちながら関わる姿が見られた。活動を重ねる中で、「どうしたら伝わるのか」という問いをもとに、発音を真似したり、知っている単語を使って話そうとしたりする姿が見られた。Zoom内で英語の絵本の読み聞かせの際は、日本語版の絵本でも同じ内容を知ること、「言っていることは同じだけど言い方が違う」「知っている言葉が出てきた」など、言語による違いや共通点に気づく姿が見られた。英語の単語ややり取りに触れる中で、「日本語と同じ言葉はあるのか」「どこが違うのか」といった問いが生まれ、「ピンクは同じ」「発音が少し違う」などの気づきが見られた。また、絵本の絵を見て「お部屋の中で靴を履いているね。」「髪の毛の色が違うね。」「お部屋の色がカラフルだね。」など、文化や生活、見た目など様々な違いに気づき興味を示していた。質問コーナーでは「何をどう聞いたら伝わるのか」を考えながら取り組み、事前に考えたり工夫したりすることで、自分なりに伝えようとする姿や、伝わった喜びを感じる姿が見られた。
- 異文化プログラムでは様々な国の衣食住に触れ、見たことも無い食材に興味を示す姿や、世界の挨拶について知ることが出来た。そこから、国によって「いただきます」にも違う言い方があるのではないかと気付いた。12・1月の世界にちなんだ献立の時には、お祝い料理や各国のいただきますで挨拶をし、毎日楽しんで給食を食べながら異文化に触れる姿が見られていた。
- ④これらの活動を通して、子どもたちは「日本語と英語はどのように違うのか」「文化にはどのような違いがあるのか」といった問いを持ち、自ら考え、気づき、表現しようとする姿が見られ、言葉や文化への興味関心が広がりながら探究的な学びへとつながっていった。



絵本を見ている様子



ハローと挨拶をしている様子



最後に講師の先生にお礼をしている様子

まとめ

活動を通して、子どもたちはZoomを通じてフィリピンの講師と関わりながら、英語や異文化に親しみを持って取り組む姿が見られた。活動の中では、「どうすれば伝わるのか」「英語と日本語はどのように違うのか」といった問いを持ち、発音を真似したり、身振り手振りを加えたりしながら、自分なりに表現しようとする姿が見られた。特に、英語と日本語で同じ内容の絵本に触れる中で、「言い方が違う」「同じ言葉もある」といった気づきが生まれ、言語への理解を深めていく様子が見られた。また、世界の生活や世界の服やおまつり、遊びなどに触れることで、「日本と何が違うのか」と考え、自分たちの生活や文化にも目を向ける姿が見られ、異文化への興味関心が広がっていった。初めは恥ずかしさや戸惑いも見られたが、活動を重ねる中で、自分から発言したり、質問したりする姿が増え、主体的に関わる様子が見られるようになった。

今後は、活動前に「どんなことに注目するか」「何を知りたいか」といった視点を共有し、振り返りの中で気づきや考えを言葉にする機会を大切にしながら、言葉や文化の違いに対する理解や、絵本から異文化へ興味をさらに深まるよう、探究的な学びへとつなげていきたい。